

ケアセンターけやき

症例概要 利用者：90代後半・女性 要介護3

利用期間 平成26年3月～現在

既往歴 アルツハイマー型認知症、糖尿病、子宮がん

経過：認知症の進行により在宅生活が困難となり、平成26年にケアセンターけやきグループホームに入居となる。入居されてからは、洗濯物たたみなど家事作業をご自身の役割として行っていたが、だんだんと出来る事が少なくなり、食事以外は、周りを見てお話されることもあるが、うつむいてウトウトされることが多くなってきていた。このままではよくないと気付き、回想法を行い笑顔を引き出す事が出来た事例。

内 容

入所当時は歩行状態も良く、周囲とコミュニケーションも取られ、タオルたたみをご自身の役割として行ったり、散歩など積極的に身体を動かされていた。帰宅願望が強く、夜になると「家に帰してくれないの」と繰り返しお話されていた。

以前より変形性膝関節症があり、時々、痛み止めを服薬していたが、徐々に膝の状態が悪化。痛みが強くなり、3年前より居室内は歩行されるが、それ以外は車いすでの生活となった。2年前位から洗濯物たたみなどの作業もされなくなり、職員が隣に座り話しかけると、周りを見渡したり返事はするが会話は続かなかく、職員が近くにいないとウトウトと傾眠するようになった。

このままではよくないと気付き、何が出来る事はないか、笑顔を見せるときはどんな時かを、これまでの生活史や入居されてからの様子をチームで話し合いを実施。

以前は、会社経営をされていたご主人を支え、住み込みの従業員の世話をしていたことを誇りに思い、その頃の話をよくされたり、また、可愛いものや子供を見ると嬉しそうにされることから、「好きなもの」「大切に思うもの」の写真を集めてアルバムにし、回想法を行うことで生き生きとした笑顔がみられるのではと考えた。そこで、ご家族にご協力をお願いし、昔の写真や、ご子息、お孫様、愛犬の写真を持ってきて頂き、拡大コピーをして「好きなものアルバム」を作成した。

ウトウトされている際に声を掛け、アルバムを見せ会話の糸口とすると「あら～」「かわいいわね」とパツと笑顔が見られた。これを続けていくうちに、ページをめくると昔を思い出したのか、最近はあまりお話されないことが多かった利用者さんが、頷きながら昔話を聞かせて下さるようになり、また「アルバムを一緒にみましょう」などと声掛けをしてして会話も増やす事が出来ました。

ご本人が以前から「好きなもの」「大切に思うもの」を探り、昔の写真を見て話しながらアルバムを作成し、ご利用者ご本人からも「また一緒にアルバムをみましょう」と声をかけて頂ける様になり、会話も笑顔も増やす事が出来ました。また、ご家族からは、「このようなアルバムを作って頂き本当に嬉しいです」と喜んでいただけた事は、キラキラ介護賞に値するとし推薦させていただきます。